

消化器内科後期研修プログラム（胆膵）

このカリキュラムは研修内容の1つの基準であり、指導医はそれぞれの項目の達成目標の参考に
する。

達成目標を次の通り A, B, C の3段階に分ける。

達成 目標	I. 一般的事項 III. 診断、治療手技	II. 疾患 IV. 手術
A	独立して行える必要がある ※は内容を理解しており、結果を評価 できればよい	経験する必要がある (術者、助手いずれの場合も可)
B	経験することが望ましいが、経験がない 場合は見学で補うことができる	経験することが望ましいが、経験がない 場合は見学で補うことができる
C	経験はなくとも十分な知識をもってい ればよい	経験はなくとも十分な知識をもってい ればよい

A. 血液、尿、糞便 ※	
1. 肝機能検査	
A. 血清酵素	
1) AST (GOT)、ALT (GPT)	A
2) LDH	A
3) ALP、LAP、 γ -GTP	A
4) ChE	A
5) LDH アイソザイム	A
6) ALP アイソザイム	A
B. 血清ビリルビン	A
C. 血清蛋白分画	A
D. 免疫グロブリン	A
2. 膵酵素、インヒビター	
A. 血清、尿アミラーゼ	A
B. 血清アミラーゼアイソザイム	A
C. 血清エラスターゼ-1	A
D. 血清リパーゼ、トリプシン、PLA ₂ など	A
3. 腫瘍マーカー、腫瘍関連マーカー	
A. AFP	A
B. PIVKA-II	A

C. CEA	A
D. CA19-9、CA50	A
E. TPA	A
F. フェリチン	A
G. DU-PAN-2	A
H. SLX	A
I. SPAN-I	A
B. 肝、胆、膵、腹腔検査	
1. X線検査	
A. 胆道造影	
1) 経口法	A
2) 経静脈法	A
3) 直接胆道穿刺法	A
4) 術中胆道造影	C
B. 内視鏡的逆行性胆管膵管造影 (ERCP) ※	A
C. 血管造影	
1) 腹腔動脈 ※	A
2) 上腸間膜動脈 ※	A
2. 画像診断	
A. 超音波検査	
1) 診断	A
2) 超音波誘導下穿刺及び生検 ※	B
3) 術中診断	C
B. CT ※	A
C. 磁気共鳴画像 (MRI, MRCP) ※	A
D. 肝胆道 RI 検査 ※	A
3. 内視鏡検査 (細胞診、生検、超音波内視鏡 (EUS)、管腔内超音波検査 (IDUS) を含む)	
A. 胆道鏡および膵管鏡検査	C
B. 腹腔鏡検査	B
4. 肝生検	B
5. 十二指腸液検査 (Meltzer-Lyon 法)	C
6. 膵外分泌機能検査	
A. BT-PABA (PFD) 試験	A
B. セクレチン試験	C
C. 糞便中キモトリプシン活性 ※	A
7. 血糖検査 (ブドウ糖負荷試験)	A

8. 腹水の一般検査及び細胞診	A
9. 肝、胆、膵	
A. 経皮的ドレナージ（胆道・膿瘍・嚢胞）	B
B. 肝動脈塞栓療法（TAE）	B
C. 動注化学療法	B
D. 腫瘍内局所注入療法（PEI など）	B
E. 内視鏡的治療手技およびドレナージ（EST, ENBD, ステントなど）	B
F. 血漿交換および血液浄化療法	B
G. 経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術（TIPS）	C
H. バルーン下逆行性経静脈的塞栓術（B-RTO）	C
I. 放射線療法	C
C. 胆・膵疾患	
1. 胆道疾患	
A. 胆石症	A
B. 胆嚢炎・胆管炎	A
C. 胆嚢腺筋腫症	A
D. 胆道腫瘍（十二指腸乳頭部腫瘍を含む）	A
E. 膵・胆管合流異常	A
F. 先天性胆道拡張症	A
G. 原発性硬化性胆管炎	B
2. 膵疾患	
A. 急性膵炎	A
B. 慢性膵炎（膵石症）	A
C. 膵嚢胞	A
D. 膵癌	A
E. 膵内分泌腫瘍	B
F. 膵発生異常	B
D. 肝、胆、膵、脾手術	
A. 肝部分切除術	C
B. 肝区域切除術	C
C. 肝葉切除術	C
D. 肝門部切除術	C
E. 肝縫合術	C
F. 肝嚢摘出術	C
G. 胆管切開術	C
H. 十二指腸乳頭括約筋形成術	C
I. 胆道消化管吻合術	C

J. 膵管空腸吻合術	C
K. 膵嚢胞手術	C
L. 膵頭十二指腸切除術	C
M. 幽門輪温存膵頭十二指腸切除術	C
N. 膵体尾部切除術	C
O. 膵全摘術	C
P. 膵部分切除 (核出術を含む)	C
Q. 肝移植	C